

令和4年度 奈良市立都跡こども園 研究実践概要

園長名 山中 理恵子
全園児数 146名

- 1. 研究主題 “とことん”遊び込む子どもを目指して
～身近なモノ・ヒト・コトにじっくりと関わる中で～
- 2. 研究年度 初年度

3. 研究主題設定理由

本園では「子ども自ら遊びを創る」ことを大事に継承している。昨年度までの成果と課題を受け、子どものしたい思いに寄り添い、さらに子どもがモノ・ヒト・コトと関係を結び、心が動き、より遊び込んでいく姿（“とことん”と捉える）を読み取り、子ども理解に努めたいと考え、主題を設定した。

4. 具体的な研究内容

①研究のねらい

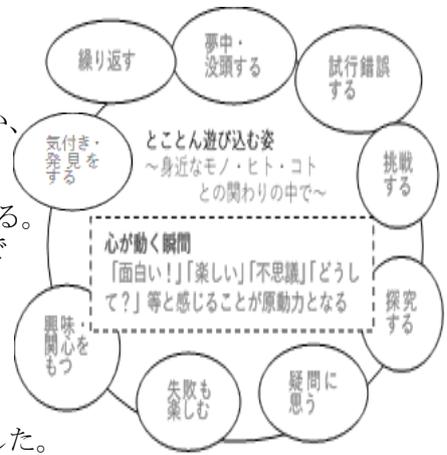
- ・子どもがモノ・ヒト・コトにどのように関わっていくのか、子どもの心の動きを見取り、心が動く要因を探る。

②研究の重点

- ・“とことん”をどのように捉えるのか職員間で共通理解する。
- ・子どもがモノ・ヒト・コトと関わりながら、関係を結んでいく姿を捉える。
- ・子どもが何に興味関心を持っているのか、そして“とことん”遊び込む姿に繋がる要因は何かを探る。

③活動の方法

- ・各学年の実践事例から、“とことん”遊び込む姿に繋がる心が動いた要因と、読み取りを以下のように示し、分析した。



とことんに繋がる心が動いた要因 【とことんに繋がる読み取り】

○3歳児（6月）事例1「雨だー」

2、3人の子どもの思い思いに机の上で容器に水や泥を入れてかき混ぜたり、チョコレートやごちそうをつくったりすることを楽しんでた。すると、A児が机からポタポタと落ちる滴に気づき、「あっ!」と思わず手を出して滴を受ける。近くにいたB児C児D児も来て「雨だー!」と喜んだり、じっとその様子を見たりして、手や容器で滴を受けて集めている。①「ほんとだー!雨みたいだね!」と寄り添い声をかけ、一緒になって手で滴を受けた。C児は雨と聞いて不思議そうに空を見上げていた。②「空は晴れてるのにね」とC児と一緒に空を見上げた。次第に滴の落ちる速さがゆっくりになり、量も少なくなってくると、「雨止んできた」「なくなりそう」と話しながら、ポツンポツンと落ちる滴をじっと見たり、そっと手や容器で受けたりしていた。傾いている机の上の水が滴になって落ちていることには気付いていない子ども達。③「ほんとだね。雨が止んできたね」とゆっくり落ちる滴を子ども達と一緒に見て楽しんだり、見守ったりした。



数日後、この日もA児とB児は机の上でごちそうづくりを楽しんでいた。A児がごちそうをつくらっていた半透明の洗面器から、溢れた水が机にこぼれ、滴となって落ちていることに気づき、透明容器に滴を溜める。B児もA児の様子に気付いてそばに来る。2人は

【驚き・興味】

【E】偶然傾いていた机
【F】滴が偶然机から落ちたこと

【生活経験と結び付けた見立て・喜び】

【H】子どもの表現に寄り添い、一緒に面白がって楽しむ保育者
【I】より興味を惹き付けられる表現

【不思議・滴の変化に気づき反応】

【C】落ちる滴の速さや量が変化する面白さ

【夢中・繰り返す】

【J】そばで一緒に喜んで遊ぶ保育者や友達
【K】滴が再び机から落ちたこと

「またやな」と話しながら横に並んでそれぞれの透明容器にじつと滴を溜め、溜まった水を再び洗面器に入れて溢れさせる。①「また雨が降ってるね。ここからこぼれた水が落ちてたんだね」と声をかけた。それからしばらく、2人は落ちる滴が地面に落ちないように両手で透明容器を大切に持って、滴の動きに合わせて動かしながら溜めては、また洗面器に水を入れて溢れさせることを繰り返して遊ぶことを楽しんだ。

《考察》

偶然、机がほんの少し傾いていたこともあり、机の上の水が滴になってポタポタと落ちていることにA児が気付き、心を動かされた。保育者は、落ちる滴を面白い姿や“雨”と表現する姿など、子どものありのままの姿を受け止めた。また、子どもが不思議に感じていることに対して、“なぜか分からないけど面白いな！楽しいな！”とその時起きていることを楽しむ姿に寄り添い、子どもと同じ目線で楽しんだ。そうすることで、子ども自身も夢中になり、繰り返すことで自ら気付く姿に繋がった。

【気付き・発見】

【E/F】水が溜まる様子や量が見える、手づくりの透明容器

○4歳児（12月）事例2「氷島ようこそ！」

雨が降った後、園庭のあちこちに氷ができていた。朝、いつものようにパンジーに水をあげようとする、タライの中の水が凍っていることに気付き、「凍ってるー！」「氷が出来ている」と嬉しそうに担任や友達に知らせに来た。①「うわーほんとやね」と子どもと一緒に喜びながら、氷を掴んだり、踏みつぶしたりして遊んだ。A児が鉄棒の前にある水たまりが凍っている事に気付き、「こっちも凍ってる」「踏んでも割れない」と言っている。その声を聞いて、B児も走って行き、「氷島だ」「みんなー氷島ようこそ」と言って手を振っている。ジャングルタワー前の水たまりにも行き、「こっちも氷島がありますよ」「凍っているのだからけいように気を付けてください」とスコップとバケツを持ちながら案内しているB児。その姿を見て集まってきた子ども達は、「うわー一杯氷あるやん！氷島すごいな」とスコップで氷をすくってバケツに次々と入れていく。C児は、氷を入れたバケツの中に水を入れて日向の方に行き、「ね、見て宝石のスープ。こっちにきたら、光るねん。こっち来て」と保育者や友達を呼んで日向の方に案内する。太陽の光で光って見える宝石スープを見て、「うわーすごっ」「きれいやな、私も作りたい」と次々に声上がる。①「こっちは光らないの？」と日陰の方を指して聞くと、「あっちは暗いから光らへんねん。こっちしか光らないよ」と言って近くにいる友達と宝石スープを作っているC児。その様子を見ていたB児が、他の保育者に「ねーねーこっちの氷島ではなんと、宝石スープが作れますよ」と言って案内している。

《考察》

雨上がり、よく遊ぶ場での氷との出会いで「氷島」と見立てた言葉により、興味をもつ姿や、「宝石」に見立て、日向や日陰での光り方の違いにも気付く姿があった。個の発見から周りの子が刺激を受けていく様子が見られた。保育者は同じ目線で共感し、それぞれの氷との関わりを認めることで、子ども達は感じたままの思いを言葉で表現していた。

【気付き・発見】

【E/F】タライの中の氷
【D】前日に雨が降ってタライの中に入った水が凍っていた

【豊かな発想】

【E/F】氷を入れたバケツ
【E/D】発想を受け止める保育者や友達
【D】凍った水たまりを氷島とイメージする

【見立て・気付き】

【E/F】太陽の光で光る宝石スープ
【E/D】C児の気付きを受け止めてくれる保育者や友達
【D】宝石スープは日向では光るが日陰では光らない

○5歳児（4月～10月）事例3「転がし遊び」

「いろんなものを転がそう」4月後半～（室内）

A児B児C児はそれぞれ、ペットボトルのキャップに色を塗ったり、2つ繋げたりして、オリジナルキャップをつくり、床や大型積み木に転がして遊んでいた。その様子を見て、傾斜をつくれるようにトイを用意すると、積み木や机を運んできて繋ぎ高低差をつけ、キャップを転がした。また、他にも転がるものがあるかもと、ガチャポン、ビニールテープ、ガムテープ、テープ芯等を持って3人で転がし始める。その中で、ガムテープが速く転がることに気付く。A児「ガムテープは重いから」B児「キャップはな、軽すぎるねん」C児「重い方が強いよな」①「なるほど」と考えに共感する。

【重さへの気付き、試す】

【E/F】保育室の中にある知り尽くしているもの
【D】園庭や室内でもトイがある
・ガムテープは重いことに気付く
【E/D】思ったことをすぐに話せる友達の存在

「ジャンプした！」 5月後半～（室内）

3人は積み木、移動式ラックを使って高低差をつけて、ガムテープ等を転がしながら、コースをつくり変えていく。一番下のトイを持ち上げて登り坂のようにし、ビニールテープの芯を転がすと最後まで転がってジャンプした。スーパーボール、ゴルフボールでも試すと、ゴルフボールがすごいスピードで転がった。そして、ビニールテープの芯とゴルフボールを同時に転がすと、ゴルフボールが速かった。①「なんで？」C児「そりゃ、重いし丸いから」と答えた。

【試行・比較・重さ
や形への気付き】

モ/ゴルフボールとの出会い
コ/ト
・トイを登り坂にしたこと
・転がしたものがジャンプしたこと
ヒ/ト
一緒に考える友達

「ジャンプ台のコース」 6月上旬（園庭）

園庭でもトイを組み合わせて、コースをつくっていた。築山の斜面にトイを繋げて、最後のトイを持ち上げて登り坂にした。B児「トイを置くものがほしい」と倉庫で竹馬収納台を見つける。少し竹馬収納台が高かったので、ヒモでトイを置く場をつくり、トイをヒモに置いて転がしてみると、ボールがジャンプした。B児「ここジャンプ台のコースや！」と言う。

【用具の選択・
ひらめき】

モ/竹馬収納台
コ/ト
試せる材料が近くにある
ヒ/ト
一緒に遊ぶ保育者の存在

「最強の壁」 6月下旬（園庭）

トイを繋ぎ合わせて塩ビ管で曲がり角をつくり、築山からスタートするカーブのコースをつくった。ゴルフボールを転がすと、塩ビ管をつけた曲がり角の所で、ゴルフボールがトイから落ちた。B児「スピードありすぎ！」と言いながら何回も転がす。①「スピードがありすぎて落ちたのかな」と一緒に確認する。その様子を見てA児は、素材が入っているワゴンの中から、トイ置きを持ってきて、曲がり角の所に置く。もう一度転がすと、ゴルフボールは曲がり切れずにトイからはみ出して落ちた。転がり方を見て、何回もトイ置きの場所を変える。すると、曲がりきれないゴルフボールがトイ置きにあたり、トイからはみ出さずに転がった。B児「あ、これ壁ってわけな」「最強の壁や」と、繰り返し転がした。

【試す・ひらめき・
発想】

モ/トイ置き、塩ビ管よく転がるゴルフボール
コ/ト
ゴルフボールが曲がりきれずに、トイから落ちた
ヒ/ト
思いを受け入れてくれる友達

「最強の壁コースにジャンプする所もつくろう」 7月（園庭）

最強の壁を通過したトイの下に、トイ置きやボウルを使って高低差をつけて、コースをのぼしていき、最後のトイを持ち上げる。B児「よっしゃ！できた」と転がすが、坂道の途中まで行って中々進まない。A児「ここかな？」と、がたがたしているトイをまっすぐにするが進まない。A児「なんでやろ？」B児「ボールの後に水流してみたら？」A児「水はいらん」D児が「泥があって、トイが汚いから」という声を聞いて、A児はトイから急いで泥を取る。C児「一回、水流して」と言う。トイがきれいになると、A児「よし！転がして」C児がゴルフボールを転がしたが、登り坂は登らない。A児「なんでやろ？」と、保育者も一緒に考える。繰り返し転がし、スピードがなくなると、手でゴルフボールを押す。どうすれば良いか困った表情だったので、クラスのみんなで話し合いの機会をもった。すると、「もっと坂道を緩くしたらいい」「高さを変える」「勢いをつける」等の、アイデアが出てきた。A児B児C児は、「いいやん！やってみる」と、嬉しそうな顔をした。

【つまずき・予想と試行・
試行錯誤】

モ/扱いやすいボウルやトイ置き
コ/ト
・がたがたして進まない
・泥があること
・悩んだ時に、クラスで話し合う
ヒ/ト
考えを伝え合うクラスの友達

次の日、登り坂のトイを支えているトイ置きから、缶に変えると、少し傾斜が緩くなった。B児「これはジャンプじゃないで」C児「でも、坂道やで」B児「でも、ジャンプはこんな感じ」と、C児は傾斜を微調整していた。何回か転がすと、3回目でゴールまでいった。A児「なんで？すごい」B児「どうやったん？」C児「今は、思い切りした！あとは、いっけー！っていう」A児はその通りやってみたが、坂道の所で止まった。それを見たC児「俺のボール、オレンジ。最強やから、一緒に転がそう」と2人で転がし始めた。①「オレンジって最強なの？」と聞くと、3人が口をそろえて「そうやで！」①「なんで？」C児「つるつるやから」A児「新しいし、絵が書いて

【諦めない気持ち・
試行錯誤・自信・
満足感】

モ/最強のオレンジボール
コ/ト
勢いをつけることを発見する
ヒ/ト
協力する友達

てないから」①「なるほど！比べてみたの？」「うん！」と自信満々に言う。C児「せーのって一緒に言ったら勢いが出るで」A児C児は転がすと、少しだけ坂道を登った。C児「あとちょっと」A児「もう一回」その様子を見ていたB児「俺も一緒にしたるわ」と、3人でオレンジや白のボールを転がした。すると、何度目かでA児「いった」B児C児「よっしゃ！」と、顔を見合わせて喜んだ。

「えっ、なんで？」 9月（園庭）

2学期もコースをつくりボールをジャンプさせようと試行錯誤していた。ある日、コースの真ん中のトイを持ち上げてジャンプ台をつくり、A児「ここがジャンプ台にしよ！」B児C児「いいねえ」と言う。B児「いくで」と転がすと、ゴルフボールがジャンプしてどんどん転がっていく。B児「すごい！」と繰り返し転がす。しかし、オレンジのボールはコースの最後までいくが、白色のボールはいかない。C児「オレンジは軽いからやろ？」A児「白色のボール重いんちゃう？」①「どっちやろ」とみんなで考えているとA児「体重計や！」と、倉庫にあった小さめの計りを見つけると、A児は白のゴルフボールをそっと乗せる。A児「70」B児「オレンジは？」と乗せると、A児「70」A児「同じや」C児「おかしいな」と言う。次の日、A児は家庭から自動の計りを持ってきて、計ってみると「白が70、黄色が80、オレンジ80」だった。C児「そんなはずない」と言って、大きめの計りを用意していたところに乗せる。計りの針を見て、「70くらいやな」と、ひとつずつ確認してA児は紙に書いていく。すると、白が一番軽かった。A児「なんで？」C児「一番重いと思ったのに」と言う。ゴルフボールの重さを計ったことで、オレンジのボールは軽くて速い、白色のボールは重くて遅いと思っていたが、そうではなかった。転がるスピードは同じ大きさのゴルフボールでは、重さは関係ないことを気付いた。

《考察》

保育者がトイをいつでも使えるような環境を用意したこと、子ども達の柔軟な発想や考えを受け止めたこと、モノの用途にこだわらずに、用具を自由に使う環境があること、また、クラスで共有することで、自分達で考え試行を繰り返す姿に繋がった。遊びを進める中で、うまくいかない時も楽しんでいたが、それは、どんなことでも伝え合える友達や保育者の存在があったからだと思われる。

5. 研究の成果

身近な環境（モノ・コト）と出合い、そこに起こった現象や出来事（コト）が絡み合い、その変化に面白さを見出していく。そして関わる様々な援助（ヒト）や存在があることでより、もの（モノ・ヒト）と向き合い気付き・発見・試行錯誤を重ね、夢中になって遊ぶ子ども姿があった。さらに年齢別に、次のことがわかった。

- ・3歳児は、自分の周りにいる保育者や友達（ヒト）や（モノ）への関心が広がり、瞬間的に「やってみよう」という思いや偶然の出来事を楽しむ姿が見取ることができた。ありのままの姿を受け止める保育者（ヒト）との関係の中で、興味をもったことをやってみようとし、3歳児なりの気付きや発見がとことん遊ぶ姿に繋がった。
- ・4歳児は、自分の世界から友達がしている面白そうな（コト）に興味をもったり、刺激を受けたりして心を動かして遊ぶ姿を見取ることができた。少しずつ周りにいる友達と同じイメージをもちながら遊び、一人一人の思いや考えを理解し、共に面白がったり、不思議がったりする保育者（ヒト）の関わりが大事であることを改めて感じた。
- ・5歳児は、今までの生活経験を活かし、柔軟な発想で（モノ）を使い、こうしたいという目的をもち、（モノ・コト）をじっくり見たり、比較したりしながら試行錯誤して遊ぶ。また、友達の考えに触れ、新しい発想や考えが明確になっていく。伝え合える友達（ヒト）の存在や、保育者（ヒト）の仲間の一員となって遊びに加わる姿勢が、より（モノやコト）と向き合い、とことん遊ぶ姿に繋がった。

6. 今後の課題

子どもを見ることなくして、環境づくりや援助は考えることができないことを実感した。今後、モノの数や種類等は、何を育みたいかを考え、子どもの発想を尊重しながら準備したり、見守る時と気付かせる時を見極めたりする保育者の具体的な関わりを探っていきたい。

【ひらめき・比較・不思議・追求・予想外の気付き】

モノ

- ・体重計計り
- ・自動計り(家庭から持って来た)
- ・数字を書いた紙

コト

- ・軽いと思っていたゴルフボールは重い
- ・思っていたことと違うことが起こった

ヒト

- ・不思議に思ったことを一緒に試せる友達
- ・予想外のことを一緒に共感できる友達